

2020



潮来市 地域おこし協力隊



2018年8月に着任した
2人の地域おこし協力隊。
どんなふうに潮来で暮らし、
どんな活動をしてきたのか
ぎゅぎゅっと
1冊にまとめました！

6月ごろのあやめ園。今年はどんな風に咲くのかな。



さとう あやさ
佐藤 彩希

協力隊 2期生



もりやま けいご
森山 健吾

1991年5月7日生 札幌市出身 大学卒業後、水戸市のラジオ局に就職。実家のある札幌に一度戻るも、「やっぱり茨城で働きたい」と潮来市の地域おこし協力隊に。任期中はこどもたちとラジオ番組を作る「こどもジャーナリスト育成事業」を実施。水郷潮来あやめ娘やイベント司会など多方面で活動。

1992年9月3日生 日立市出身 東京の大学に進学し、卒業後は東京で就職。地元茨城のために何かできないかという想いから潮来市の地域おこし協力隊に着任。茨城県立潮来高等学校の生徒とのコラボ企画を実施しながら「高校の魅力化」に取り組む。趣味は、スポーツ少年団でコーチをしているソフトテニスとライブ鑑賞。

大募集/
地域おこし協力隊
3期生



移住・定住に関する活動、産業振興に関する活動を行う潮来市地域おこし協力隊を大募集！びっくりするほど面倒見のいい職員さんがアナタの活動をサポートしてくれますよ！
0299-63-1111 (産業観光課または秘書政策課)

Contents

- 04 地域おこし協力隊スペシャルインタビュー①
森山健吾隊員をクローズアップ！
地元高校とのコラボ企画「潮来産の野菜を販売しよう！」
森山健吾のanother face
- 08 地域おこし協力隊スペシャルインタビュー②
佐藤彩希隊員をクローズアップ！
「こどもジャーナリスト育成事業」「水郷いたこ離巡り」
佐藤彩希のanother face
- 10 どんな仕事をしているの？①
キーマンストーリー
- 12 どんな仕事をしているの？②
協力隊しんぶん
- 14 協力隊を体験！
潮来市スペシャルすごろく／編集後記



潮来市
地域おこし協力隊
いたこぐらし

What's 地域おこし協力隊？

人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、定住や定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度。

平成30年現在、全国1061の自治体に5,359名の隊員が活動している。茨城県では平成31年現在、22の自治体で66名の隊員が活動中。

——潮来市に来るまでどんな活動をしていましたか？

大学卒業後、東京の広告代理店に就職しました。もともと人の関心を惹きつける「広告」に興味があり、大学でも専攻していました。そして、いずれ自分がその作り手になってみたいという想いからこの業界に入りました。営業として2年間勤めながら、広告を生み出す仕事に携わりました。

——潮来市の地域おこし協力隊に応募した理由は？

「茨城のために何かしたい」という想いはありました。何ができるのか、何をやりたいのかは明確に決まっていませんでした。その中で、前職時代に知った「地域おこし協力隊」なら自分の想い描いくような仕事ができると思いこの道に決めました。さまざまな自治体が募集している中でなぜ潮来なのか。それは、せっかく地域おこし協力隊をやるのであれば、「何も知らない」地域に飛び込んで挑戦してみたかったからです。また、何も知らないからこそ、すべてが初めて。そんな初めてを体験しながら潮来の魅力を感じていきたいと思ったからです。

——最初に感じた潮来市の印象をズバリ！

「お米が美味しい！」です。着任してすぐの暑い時期、「一番星」という品種の新米のお米をいただきました。これまで食べたことがないような甘味・うまいを感じ、衝撃を受けたことは今でも覚えています。

数年以内には
うろ舟船頭に…？！

森山 健吾



緊張しながらも野菜販売に挑む生徒たちは、これまでの授業の成果を存分に発揮してくれました。

成功体験の場を 生み出す

茨城県立潮来高等学校に今年度より新設された「地域ビジネス科」の生徒とのコラボ企画が実現しました。これまでにも潮来の魅力や地域おこし協力隊の活動を紹介する講義や潮来のためにどんなことができるかを考えるワークショップなど交流を図ってきました。

そのような交流をする中で、本格的に高校生を対象にした企画を実施してみたいという想いが生まれました。その背景には、挑戦できる機会を生徒に作ってあげたいという想い、生徒が積極的に取り組めるような授業を作りたいという考えがありました。「生徒のやってみたい！」を実現させることで「成功体験の場」を生み出し、日々の学校生活やこれから的人生に繋がる体験を提供する。そんな活動を協力隊として実現できればという想いから、今回第一弾となる「潮来産の野菜を販売しよう！」の企画を考えました。

実施にあたっては高校側（担任の先生や校長先生）に企画の趣旨や生徒との交流に対する私の想いを伝えました。また、イベント会場となる道の駅いたこにも相談し、企画実施に向けて全面的に協力いただけることになりました。

地域の魅力を知り、 伝える

企画の実施が決まりさっそく初回の授業。教壇に立ち、15名の生徒に向け企画の説明や企画に込める私の想いを伝えました。実施する企画は、「潮来産の野菜を販売する」というものでしたが、単に野菜を販売するだけではありません。イベント当日に販売する野菜を生産している農家さんのものを訪れ、収穫の体験やインタビューを行う授業。また、農家訪問で知ったことをPOPやレシピに盛り込みながら、どうすれば野菜を購入してもらえるかを考える授業などを行っていました。



農家訪問では、市内で農業を営む岡野豊さんにご協力いただき、「にんじん」、「小松菜」、「かぶ」の収穫とお話を聞かせていただきました。限られた時間の中で、野菜の魅力・こだわりはもちろんのこと、なぜ就農しようと思ったのか、どんな想いで野菜を育てているのかという「ヒト」の部分にも迫ったインタビューを行いました。

そして、そんな貴重な経験をした生徒たちには、その経験を販売の場で活かすためのPOP、レシピづくりに取り組んでもらいました。制作物はパソコンを使わずすべて手作業で制作し、手作り感を出しました。地域の魅力を知り、そこで知ったことをどう伝えるのかを学びながら、野菜販売のイベントを迎えました。

イベント当日。最初は戸惑いながら接客をしていた生徒も徐々に慣れ、積極的に売り込みを行う生徒も出てきました。当初の予定よりも早くに完売し、大盛況のうちにイベントは終了しました。

私にとっての 「地域おこし」

今回は、「野菜販売」というひとつの切り口で「成功体験の場」を生み出しました。これからも「野菜販売」に限らず、「生徒のやってみたい!」という気持ちを引き出し、それを実現するための企画を考えていきたいと思います。もちろん、第一弾として実施した今回の企画も一度きりで終わらせるわけにはいきません。イベント終了後、生徒、学校の先生、道の駅いたこの方々にアンケートを取りました。肯定的な感想が多い中でも課題や問題点はありました。私自身のふりかえりでも多くの反省点がありました。今回得た気づきや改善点をもとに次回以降の企画に活かしていくたいと思います。

さまざまな企画を実施しながらより多くの人を巻き込み「成功体験の場」を作り、生徒のためひいては高校の魅力化に繋げていなければと思います。また、地域と高校（生徒）が繋がることで、これまでとは違った新たな交流が生まれてくるはずです。

農家訪問で収穫やインタビューを行う生徒たちは、終始笑顔で楽しそうでした。



その繋がりを作ることが今の私の目標であり、私にとっての「地域おこし」です。

最後になりますが、本企画は、企画の実施を受け入れてくださった潮来高校、農家訪問を受け入れてくださった岡野さん、企画のバックアップをしてくださった道の駅いたこのなど、多くの方々に支えられ実施することができました。本当にありがとうございました。



森山 駿吾
another face

モットーは「楽しいと一緒に！！」

次の世代を担うこどもたちの成長に貢献したい



潮来市民大会に臨むこどもたち



レベルの高い大会ということもあり毎回刺激を受け、日々のスポ少活動のモチベーションになっています。

練習は毎週、金・土・日。大会も多く毎月参加するときもあります。それでもそんなスポ少の活動が大変だと感じたことはありません。それは、こどもたちに教えながらも自分自身ソフトテニスが好きで楽しんでいるからです。こどもたちには、技術だけでなく私の思う「ソフトテニスが好きな気持ち、楽しむ気持ち」も伝えていければと思っています。

楽しいと一緒に

スポ少の子供たちに協力隊が開催するイベント（企画）に参加してもらったこともあります。せっかく繋がりができるこどもたちと一緒に何か楽しいことができればという想いがあったからです。

昨年開催された「ITAKOフェスタ2019」において「こども店長 野菜販売」を実施しました。一生懸命に野菜を売ったり、ブースを宣伝したりするこどもたち。普段のソフトテニスをするこどもたちは違った一面を見る事ができました。イベント終了後には、こどもたちから「楽しかった」、「またやりたい」といった感想も聞くことができ、やりがいを感じたところです。

今後も、日々のスポ少の活動はもちろんですが、こどもたちが楽しめる機会を提供できればと考えています。

こどもたちの活躍にぜひ、ご注目ください！！



自分の経験・想いを 次の世代に

協力隊に着任してから半年が経った2019年1月から「潮来ソフトテニススポーツ少年団（以下スポ少）」でコーチとして活動をしています。ずっと好きなソフトテニスをやりたかったこと、こどもたちと交流できる機会を求めていたことから入団させていただきました。これまで人に教えてきた経験はないため現役のころよりソフトテニスについて勉強しているところです。また、勉強する際には、どんなふうに教えればこどもたちが分かりやすいかも考えています。

また、教えることだけでなく、私自身大会にも参加しています。毎年2回開催される潮来市の市民大会に同じスポ少のコーチとペアを組み、出場しています。



——潮来市に来るまでどんな活動をしていましたか？

大学卒業後、茨城県水戸市のラジオ局に就職しました。小学生のころからアナウンサーになりたくて、就職活動をする中で、ご縁があったのが茨城県のラジオ局だったんです。3年水戸で働いて、一度実家のある札幌に戻ったのですが、茨城が恋しくて戻ってきました。 「どんな仕事をするか」よりも「どこで仕事をするか」のほうが私にとっては重要なだと気づきました。

——潮来市の地域おこし協力隊に応募した理由は？

茨城で働きたいけど何の資格も持っていない私に何ができるだろう…そう考えている時にたまたまフリーペーパー目にしたのが「地域おこし協力隊」募集の要綱でした。会社員時代に一度稻敷市の地域おこし協力隊を取材したことがあり「おもしろそう！」と興味を持っていたのですぐに応募しました。潮来市に決めた理由は、業務内容（ミッション）がフリーだったからです。自分に何ができるかわからないけれど、まずは挑戦してみよう！と気持ちだけで飛び込みました。そんな私を受け入れてくれた潮来市には感謝しかありません。

——最初に感じた潮来市の印象をズバリ！

「広い田んぼに感動！」です。これまでの人生でなんども田んぼを目にしているはずなのに、潮来市に来てから見たそれは格別でした。一目で「ここで暮らしていくな」と感じました。

毎日の通勤は
Ninja250で(^^)/



Thank
フル!

佐藤さん
喜山さん
今吉ア
かがこうじ
いいた

下村とも
くわらとも

かわらとも
くわらとも

楽しい時もそうでない時も、一緒に闘った小さな戦友たち。半年で一回りも二回りも成長しました。

「ヒト」を知り 「地域」を知ること

任期中メインで取り組んだのは「子どもジャーナリスト育成事業」です。潮来市の小学生が地域住民を取材し、その内容をもとにラジオ番組を作り上げるというもの。潮来市としても初めての取り組みで、参考になる事例も少ないので苦労しましたが、その分自由に活動できました。

大切にしたのは「ヒト」を掘り下げる。どんな仕事をしているかよりも、どんな想いを抱いているのか、もっと言うなら、趣味は？好きな食べ物は？そんなところまで質問をしてもらいました。

身近な大人を知る授業から始め、インタビューの仕方、まとめかた、ラジオ番組の作り方を半年かけて一緒に勉強しました。ラジオ番組の作り方を人に教えるのは初めてで、心配が尽きませんでした。

そんな気持ちを吹き飛ばしてくれたのは、同期の協力隊であ

り、学校の先生であり、こどもたちであり、地域のみなさんでした。

事業の集大成となる発表会。緊張した面持ちのこどもたちも、練習の成果を十分に発揮し、期待をはるかに超える番組を披露してくれました。

「今度は違う人もインタビューしてみたい」「言葉の意味を調べるようになった」など一人ひとり違った角度で何かしらの手ごたえを感じたようです。

こどもたちもさることながら、一番成長したのは私自身だと感じています。当たり前にこなしてきたことに疑問を持ち、考えて行動するようになりました。そしてこれまでデータでしか潮来市を見ていなかった！と思い、積極的に地域イベントに参加したり、飲食店に足を運んだりしました。

地域を作るのは「ヒト」。それを教えてくれたのは、この事業を遂行させてくれた潮来市であり、潮来市の皆さんです。本当にありがとうございます。



取材セットには、しおり、レコーダー、カメラのほかに名刺も含まれています。人生初の名刺交換を体験してもらいました。

一度限りは さみしいから

市内にある石蔵をメイン会場に、段飾りや吊るし雛を飾り楽しむ「水郷いたこ雛巡り」に企画段階から携わりました。「今年は地域おこし協力隊も一緒にやってみよう!」と声をかけてもらい、土日のワークショップ講師のアテンドや広報を担当しました。

期間中6回のワークショップ(WS)のうち、3回分のWSの講師探しを任せられました。「また会いたい!ぜひお願ひしたい!」と強く思っていた3名の方々に講師依頼をすると快く承諾してくれました。会いたいと思っている人に提案を受け入れてもらえるなんて、嬉しい限りです。

私は“人”が大好きで、その人の出会いを一度限りにしてしまうのはさみしくて苦手です。できれば何度も会いたいし、その都度色々なお話を聞きたいと思っています。このイベントで出会った方々とは今後も長くお

付き合いさせていただきたいと思っています。

食に恵まれ、 人に恵まれ

イベントのメイン会場にはしっかりとした厨房設備があり、この空間を利用して潮来市の食材を楽しめるイベントができればと企画したのが「潮来市産品試食会」です。これまでキーマン取材(12ページ参照)でお世話になった方の野菜や牛乳を使用し、クラムチャウダーやカナッペを提供しました。事前告知が足りなかったにもかかわらずあっという間に鍋が空っぽになるほどの大盛況!

同会場では潮来市唯一の酒蔵である「愛友酒造」の日本酒飲み比べも販売しました。このお酒が大好きで、コラボできないか社長に掛け合ったところ快諾してくれ実現したものです。

職員をはじめ、キーマンや市民など、多くの人にサポートしていただき、人に恵まれていることを強く実感しました。

「水郷いたこ雛巡り」期間中の平日のワークショップは「おひなさま作り」でした。



講師の方の事前取材。なんとご自宅に招待していただきました。



特製クラムチャウダー。潮来市産食材を10種類近く使用しています。



「おひなさまづくり」300円



佐藤采希
another face

モットーは「とにかく何でもやってみる」

どんなことも経験しておいて損はない
やってみなくちゃわからない



あやめまつり期間中、「ろ舟」の練習をしました。が、まっすぐ進みません。かなりの訓練が必要です。



あやめ成長日記

2019年のあやめまつりは管理人か?と思われるほど毎日会場の水郷潮来あやめ園に通いました。「協力隊あやめまつりチャレンジ」と題し、来園者1000人と写真撮影をする企画を立ち上げ、実行。目標には届かなかったものの「来年も写真撮ろうね」と声をかけてもらうなど観光客との会話を楽しむことができました。土日はあやめ娘としておもてなしをし、「毎日あなたの顔見てる」と手入れをしている方に言われるほど通い詰めました。雨の日も風の日も、あやめの成長を見守りたかったんです。

「わっしょい」が
言いたくて

潮来市の夏の一大イベントと言えば「潮来祇園祭禮」。潮来市潮来地区の住民を中心に一生懸命準備・

練習をしているのにその様子が取り上げられていない。もったいない!と各町内に事前取材をお願いしました。山車の彫り物の見どころや踊りの特徴を教えてもらい、祭り当日には山車を曳かせてもらえたなど、最高のイベントでした。念願の「わっしょい!」も踊りの時に言うことができました。

やっぱり、
「知りたがり」「やりたがり」

市内で司会業を営む社長さんからイベントの司会のお仕事をいただき、仕事として行事に参加する機会が多くありました。1参加者としてでは知りえなかった情報が手元に届くので、いつもワクワクが止まりません。式典の司会をすると、その土地のキーマンと顔見知りになれるので、ものすごく得した気持ちになります。打ち合わせは、ほとんど私の質問攻めの時間になってしまいますが、懲りずに答えてくれる皆様には本当に感謝しています。飽くなき私の探求心。おそるべし。

趣味はツーリング、マラソン、少林寺拳法(三段)、チロルチョコ集め、読書etc…



地域おこし協力隊に興味はあるけれど、
自分に何ができるかわからない…
まずは潮来市地域おこし協力隊が行う
2つの業務をご紹介します。

LET'S TRY!

地域を知るために まちを歩いて “取材”を しよう！



地域のキーマンと「お近づき」になる！

地域の“ヒト”を知る

ある地域に住むうえで情報はとても重要です。スーパーや病院、娯楽施設がどこにあるのかわかると生活が想像しやすいですよね。

潮来市地域おこし協力隊はそういう情報のほかに“ヒト”に注目した情報発信も行っています。地域で精力的に活動している人（キーマン）を取材してインターネットの記事にまとめる、**キーマン取材**です。2020年3月現在、30人以上を取材してきました。

この活動のいいところは、「市民とのつながりが広がる」ことです。“取材”を通して、相手の想いを聞くことで、地域への理解を深めるきっかけをつかめます。運が良ければほかの

キーマンを紹介してくれることもあります。また、これまで知らなかった分野についての知識を蓄えることができます。キーマンは農家さんや飲食店経営者、お花屋さんなど様々です。この地域にはこんな職業の人が多いんだな、同じ職業だけどそれぞれアツイ想いを持っているんだな、などたくさんの発見があります。

キーマン取材は、①取材のアポイントを取って②質問内容をまとめて③30分～1時間でインタビューをする、という流れで行います。思わず話が盛り上がって気づいたら2時間も経っていた！なんてこともあります。

人に話を聞くなんてできないよ…と思わずに、まずはチャレンジしてみましょう。きっと今まで見落としていたたくさんのこと気に気が付くはずです。知って損をすることはありません。



潮来市移住定住公式HP
「潮来暮らし」もぜひ
ご覧ください！



地域を知るために まちを歩いて “取材”を しよう！

SNSの時代だからこそ

着任した翌月から始まったのが「協力隊しんぶん」です。協力隊2期生のミッションは情報発信。SNSが主流とはいえ、まだ紙媒体の需要は高いと聞き、月に一回新聞を発行することになりました。内容は、協力隊が潮来市に住んで感じたこと、取り組んだこと、日常で感じたことなど他愛もないことがほとんどで、緊急性のあるニュースはありません。「こんな緩い内容でいいのか？」と思うこともありましたが、「協力隊の何気ない日常を垣間見ることができ面白い」と意外と好評です。

市役所の中でじっとパソコンとにらめっこしていく間に記事は書けません。今の時期どんな花が咲いているのか、はやりのお店はどこかとにかくネタを見つけるために街歩きをするようになりました。こんなところにこんな花が咲いていたとか、思ったよりも傾斜がきつい道なんだな、とか、歩くことでたくさんの発見があります。

この発見は、街で出会った人と会話するときにとても役に立ちます。「あの道が良いトレーニングになるのよ」と言われ、詳しく聞いてみると街歩きで気づいた、傾斜がきついあの坂であることがわかりました。



潮来から世界へ

「協力隊しんぶん」はどちらかというと潮来市民向けの情報を掲載することを意識しています。住んでいる人が「やっぱり潮来っていいよなあ」と感じてほしいという願いを込めています。この住みよいまち潮来をもっと知ってもらおうと、潮来市外の人へ向けた情報番組「いたこ知っchao!!」をYouTubeで配信してきました。テレビやラジオでは取り上げられないけれど、協力隊が気になった話題を取り上げる「協力隊ニュース」、活動する中でピピッと来たことを



“どローカル記者”になる

「わたしもこの間あの道通ったんですけど、息が上がっちゃいました！」なんて話をすると「若いのに何言ってんだか～！」とちょっと盛り上がりります。そんな会話の積み重ねが、活動の宝物になっていくのです。

配布は、区長回覧のほか、潮来市役所や図書館、公民館で行っています。発行されてすぐに市民の方にお届けすると「毎月読んでるよ！」と嬉しい声をかけてくれます。協力隊の名刺代わりとしての役割も担っています。



2020年3月で19号目となった

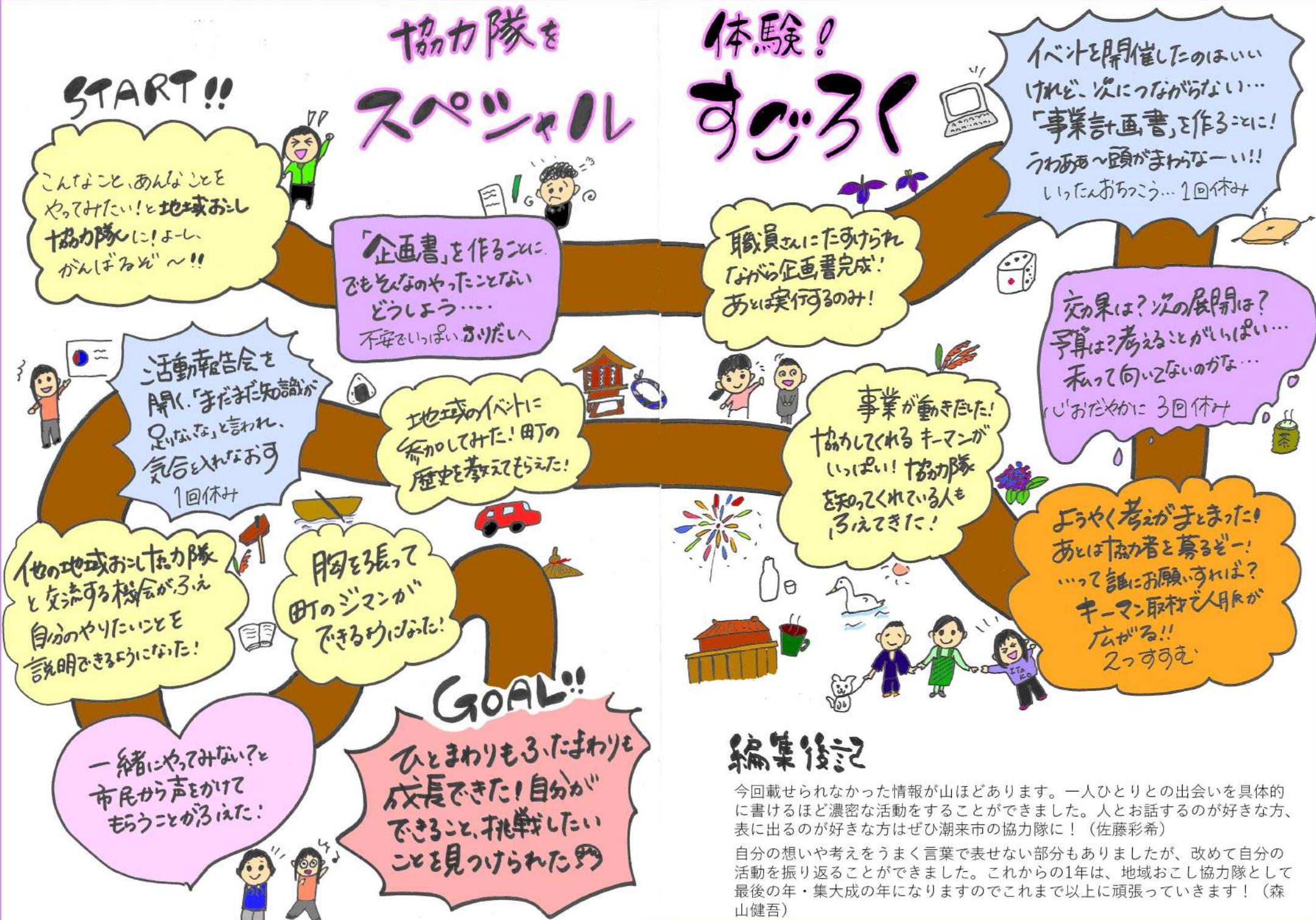
まとめた「協力隊ビビッド」などコーナーごとに構成されています。再生回数はそれほど多くありませんが、見てくれた人からは好評です。小学校や高校での授業ではこの動画が大活躍です。視覚に訴えることができるのでインパクトも強く、記憶に残りやすいようです。取り上げる内容は「協力隊しんぶん」とリンクしていることが多いので、しんぶんと一緒に視聴してもらうようにしています。

潮来の情報を世界へと発信し、一人でも多くの人の心に留まるような映像を配信していくと考えています。

また、使えるSNSは分担して利用しました。TwitterやFacebook、Instagramなど多岐にわたります。中でも最も反響があったのはTwitterでした。時期やイベントによって傾向は変わるので研究してうまく利用していくことがよさそうです。



随時更新中！
お時間のあるときにぜひご覧ください！



潮来で
い寄ってます♪ /

潮来市
地域おこし
協力隊
しんぶん



潮来市は変化の時を迎える。私はそうは思えない。毎回変化なんてなかったじゃないか。変わらないものは変わらない。

潮来市 地域おこし協力隊

上下の文章を下段から一文ずつ逆に読んでください。潮来市に変化の風を巻き起こすのはアナタです。

皆が言う。もうどうしようもない。ただ日々が過ぎてゆく。素晴らしい財産が埋もれてゆく。成す術なし、これはヤバイ。